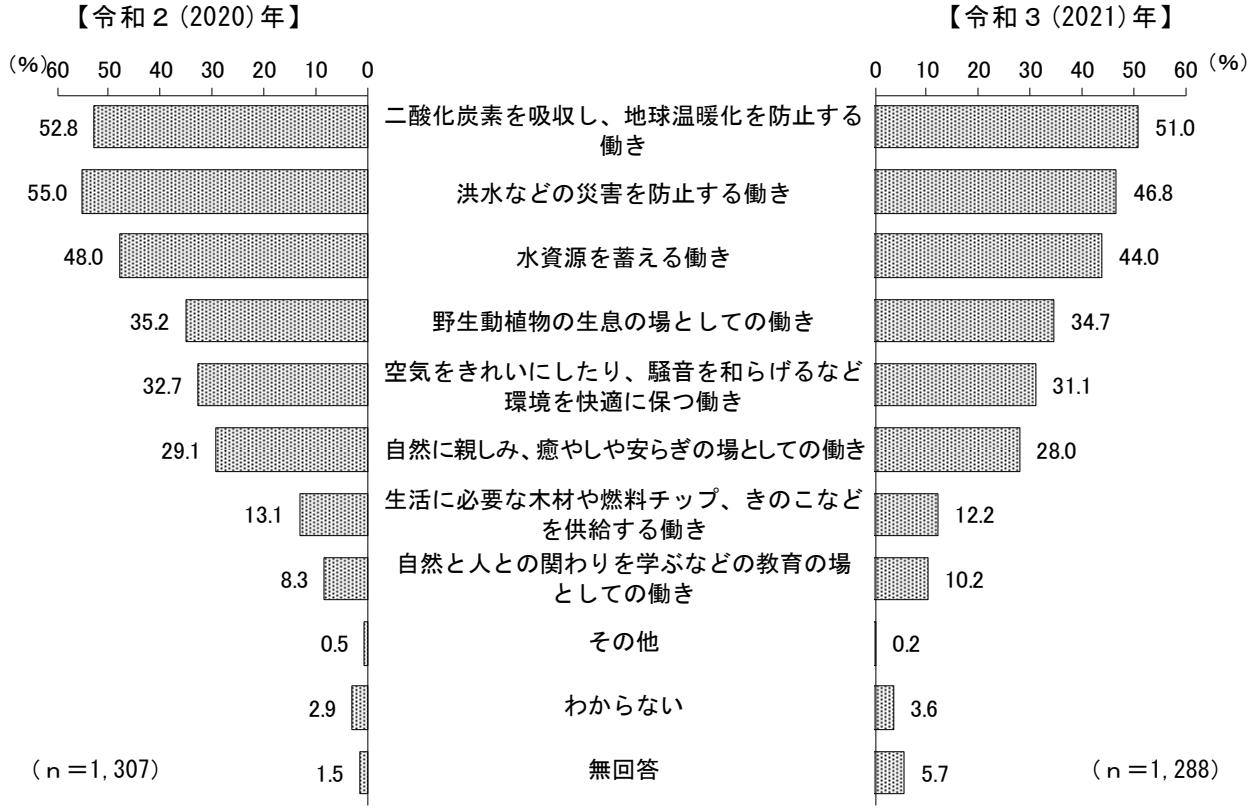
10　とちぎの元気な森づくり県民税について

（１）重要と考える森林の働き

問27　森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から３つまで選んでください。

［ｎ＝1,288］

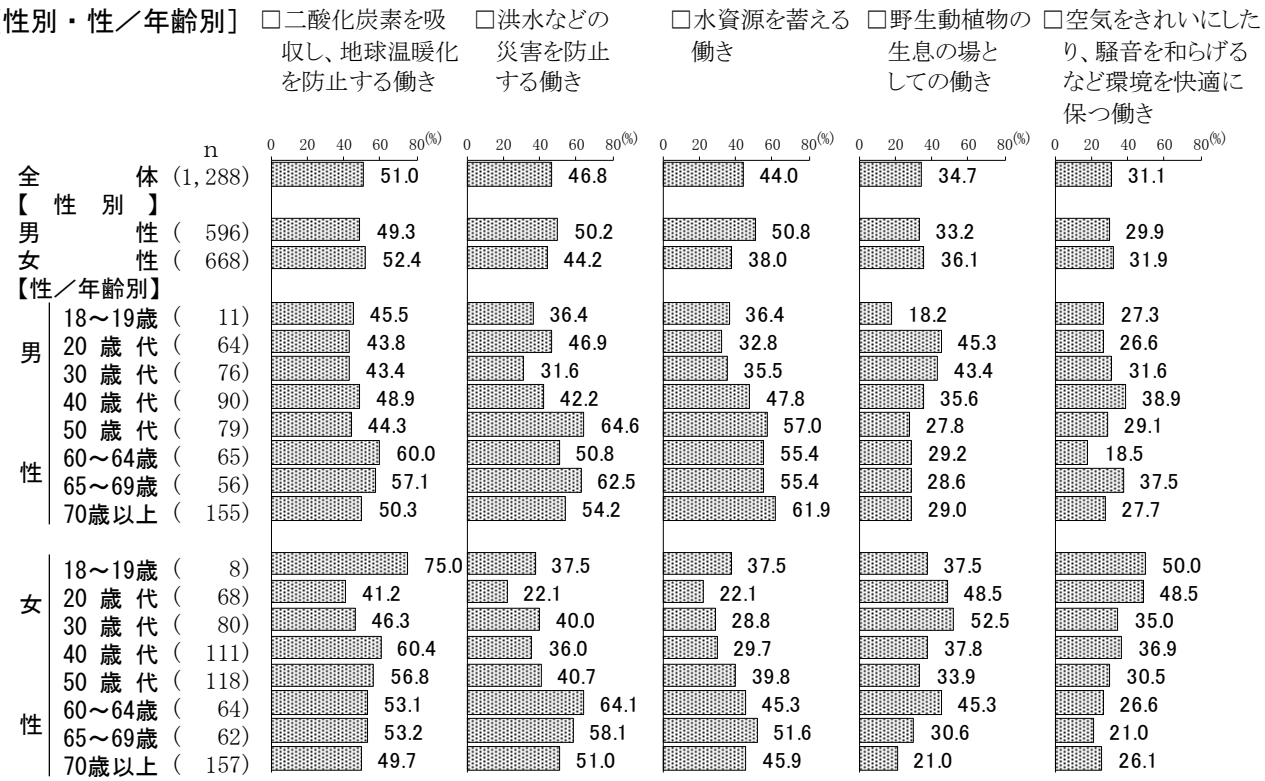
1	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	12.2%
2	水資源を蓄える働き	44.0
3	洪水などの災害を防止する働き	46.8
4	野生動植物の生息の場としての働き	34.7
5	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	31.1
6	自然に親しみ、癒やしや安らぎの場としての働き	28.0
7	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	10.2
8	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	51.0
9	その他	0.2
10	わからない	3.6
	（無回答）	5.7

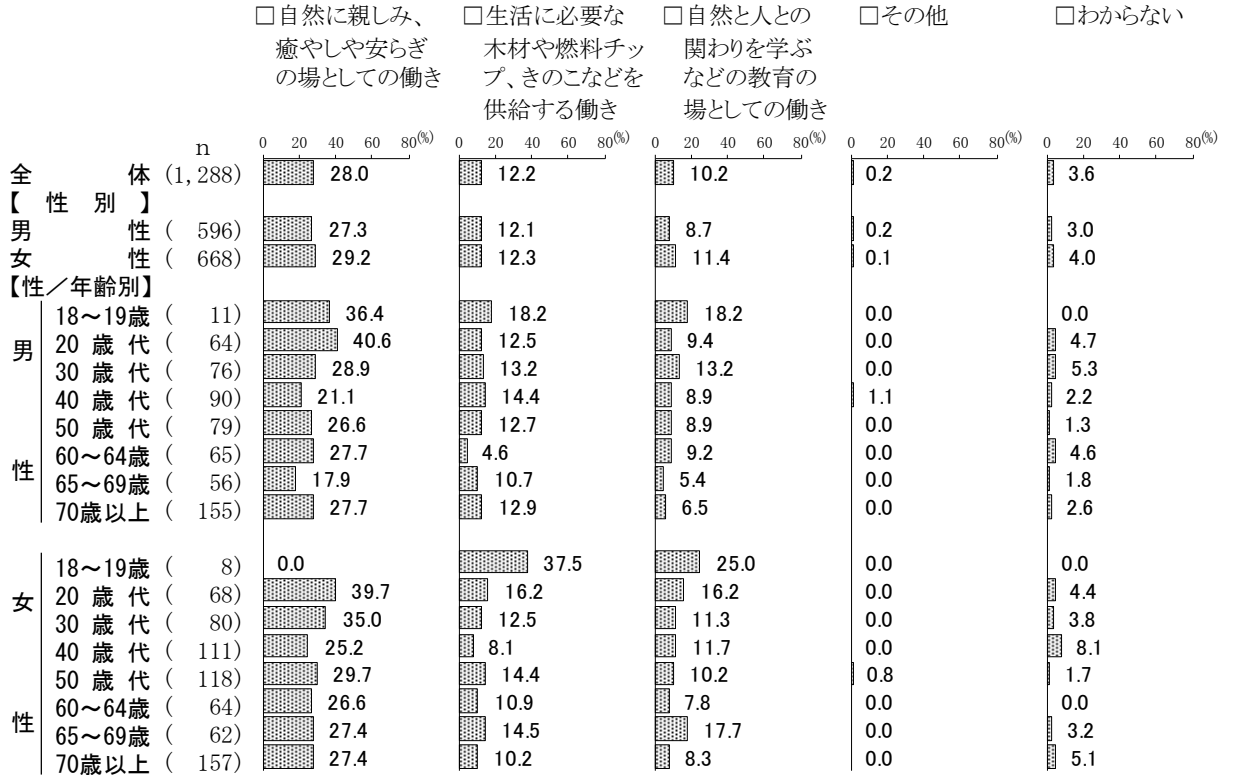


全体でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」（51.0%）が５割を超えて最も高く、次いで「洪水などの災害を防止する働き」（46.8%）、「水資源を蓄える働き」（44.0%）、「野生動植物の生息の場としての働き」（34.7%）、「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」（31.1%）の順となっている。

前回（令和２(2020)年）の調査結果と比較すると、「洪水などの災害を防止する働き」が8.2ポイント、「水資源を蓄える働き」が4.0ポイント、それぞれ減少している。

［性別・性／年齢別］

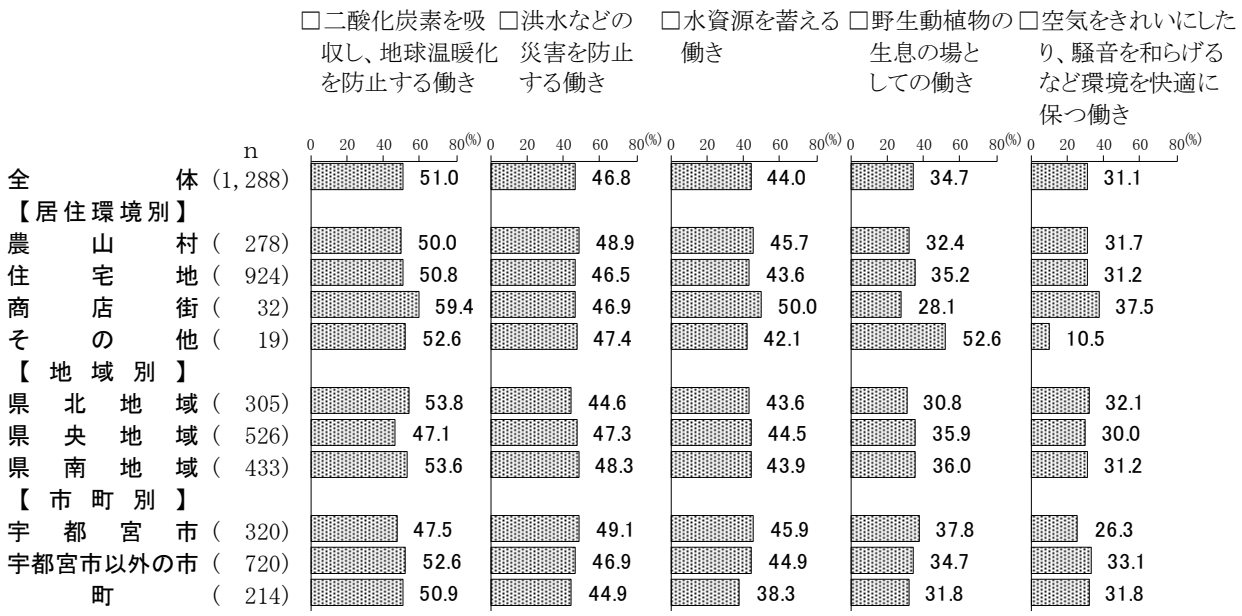


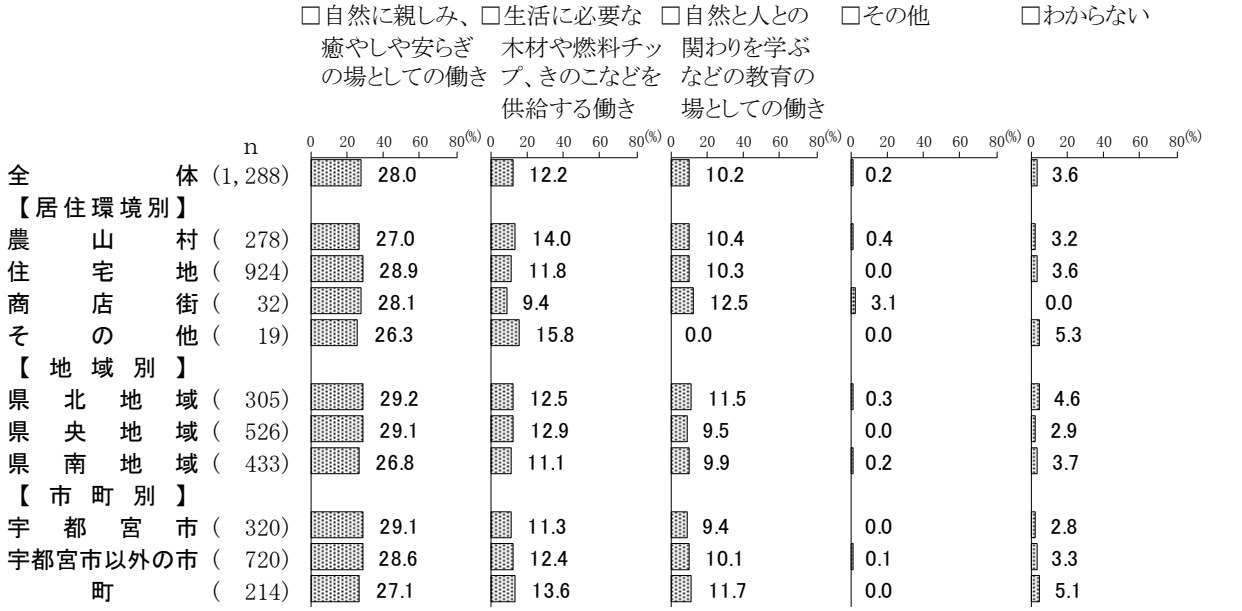


性別でみると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(50.8%) が〈女性〉(38.0%) より12.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈男性50歳代〉が64.6%、〈女性60～64歳〉が64.1%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性70歳以上〉が61.9%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が52.5%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈女性20歳代〉が48.5%と高くなっている。

［居住環境別・地域別・市町別］





居住環境別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈商店街〉が59.4％と高くなっている。

地域別・市町別では、大きな傾向の違いはみられない。

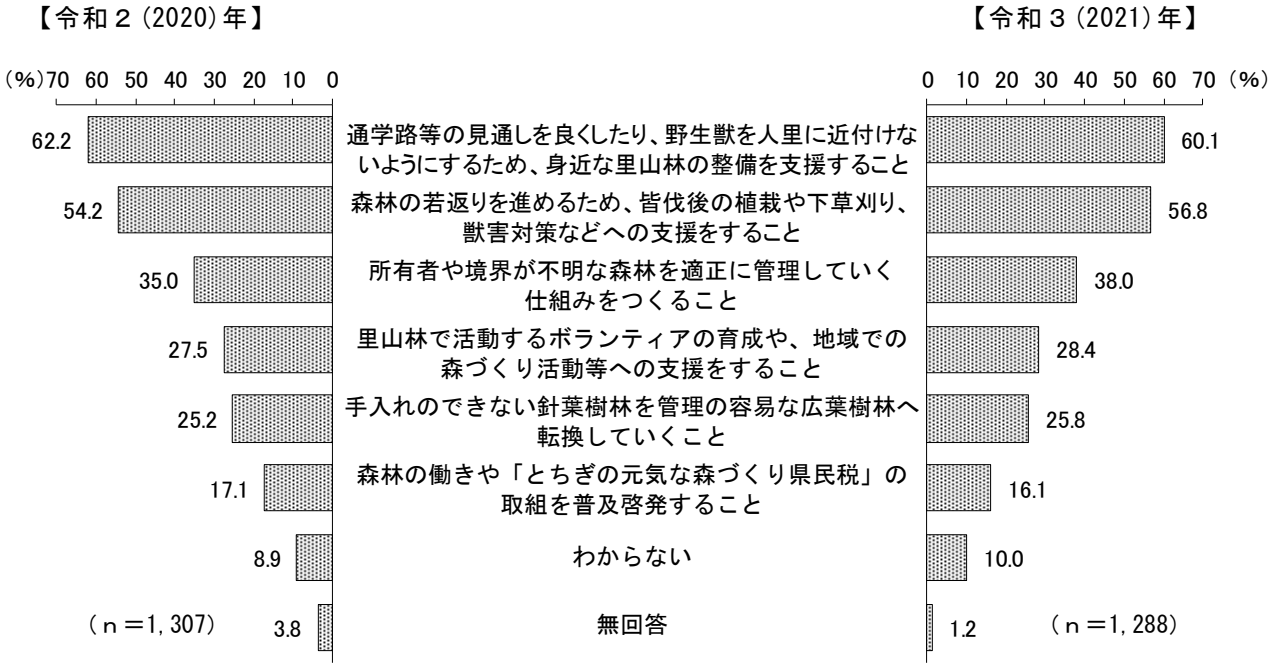
（２）「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問28　栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から３つまで選んでください。

［ｎ＝1,288］

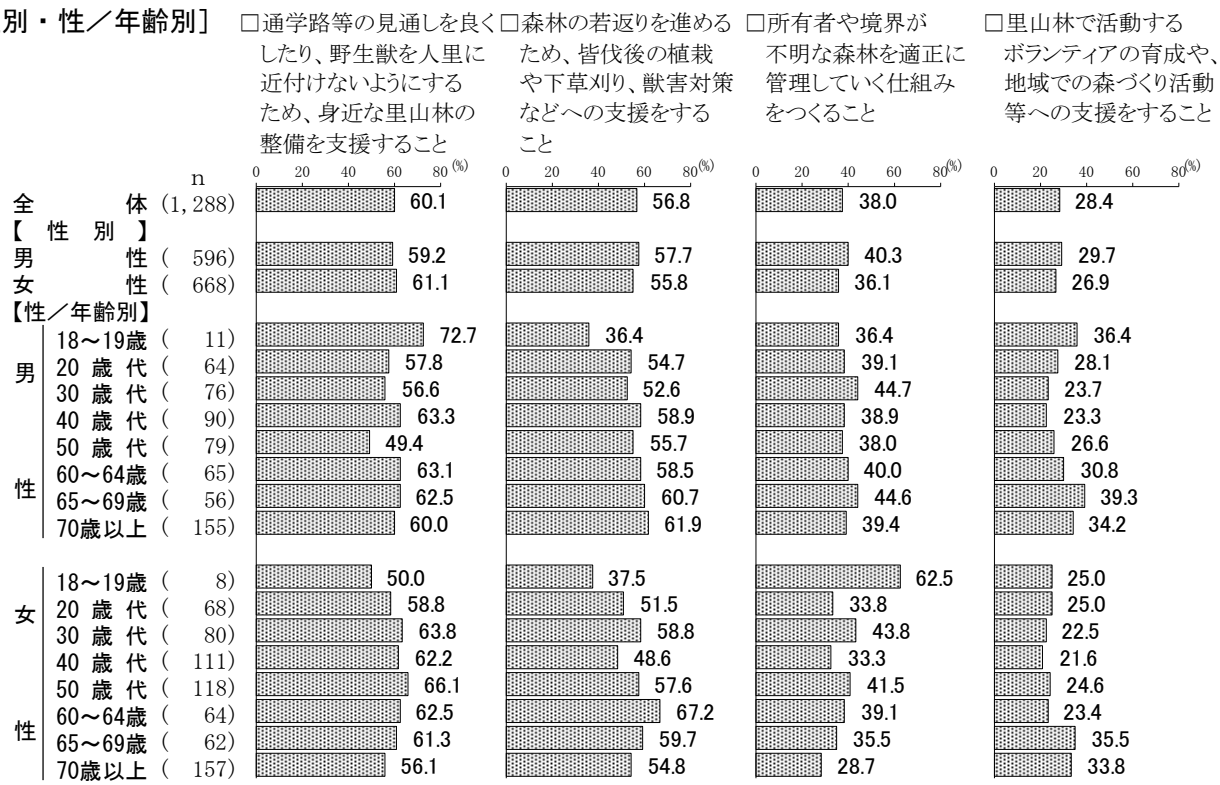
1	森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること	56.8%
2	手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと	25.8
3	通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること	60.1
4	里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること	28.4
5	所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること	38.0
6	森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること	16.1
7	わからない	10.0
	（無回答）	1.2

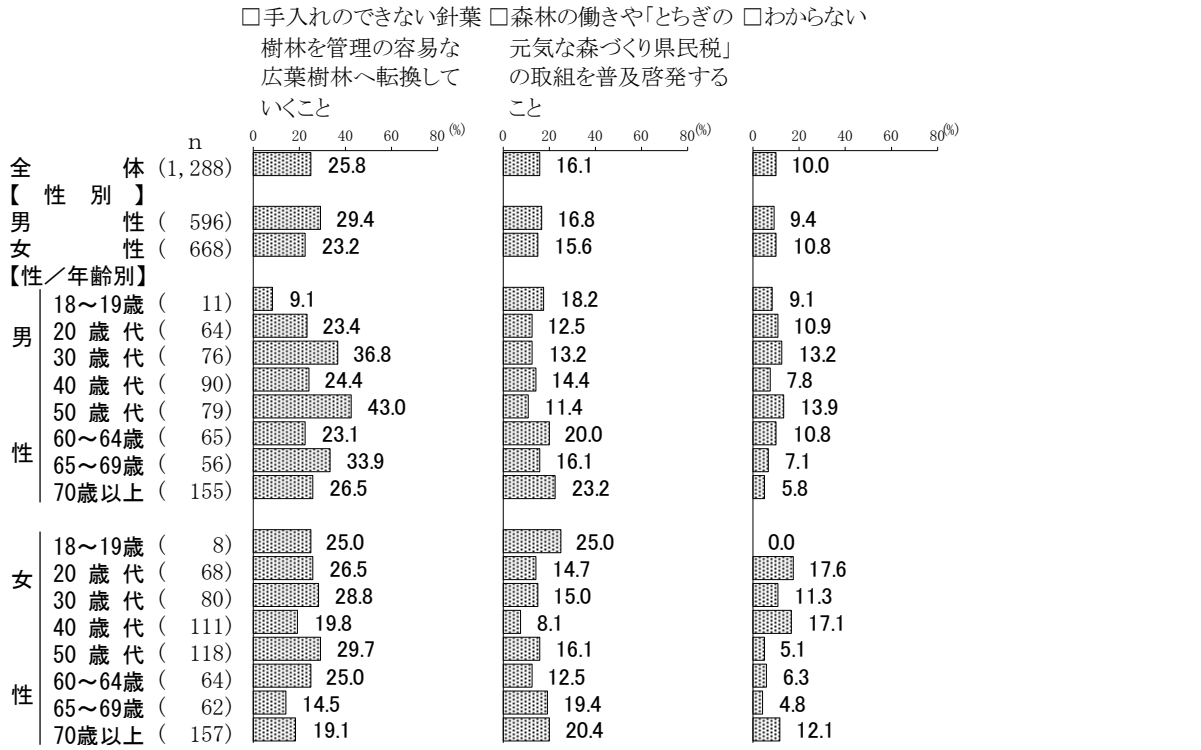


全体でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」（60.1%）が６割で最も高く、次いで「森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」（56.8%）、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(38.0%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」（28.4%）、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」（25.8%）の順となっている。

前回（令和２(2020)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

［性別・性／年齢別］

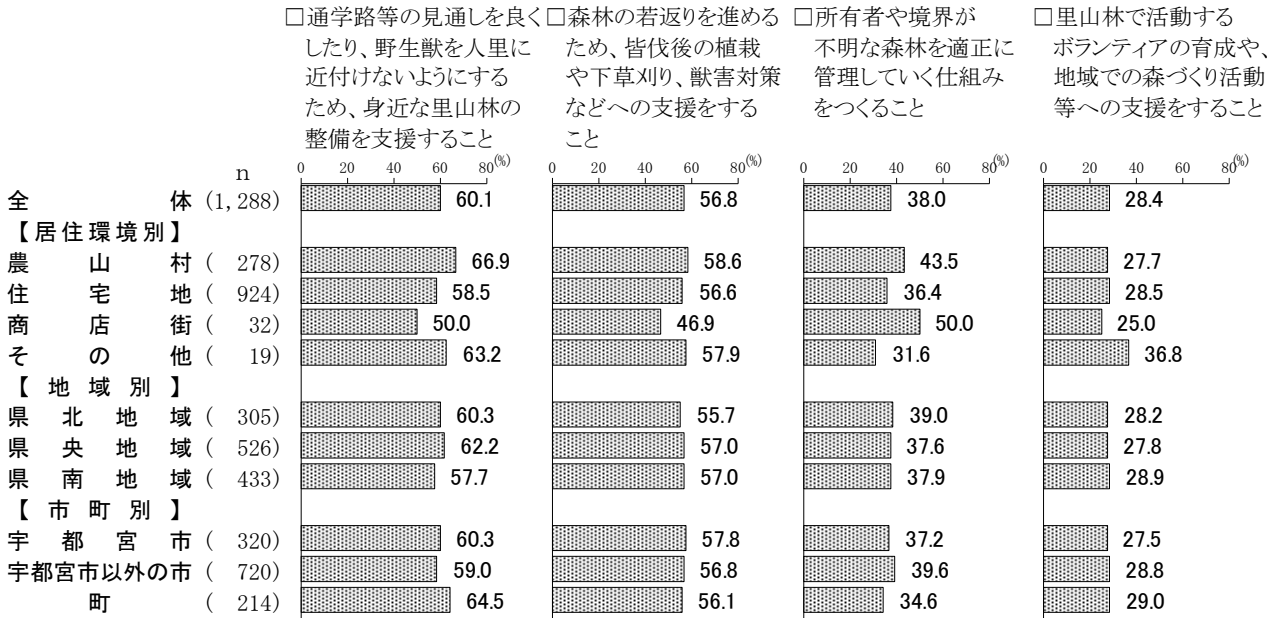


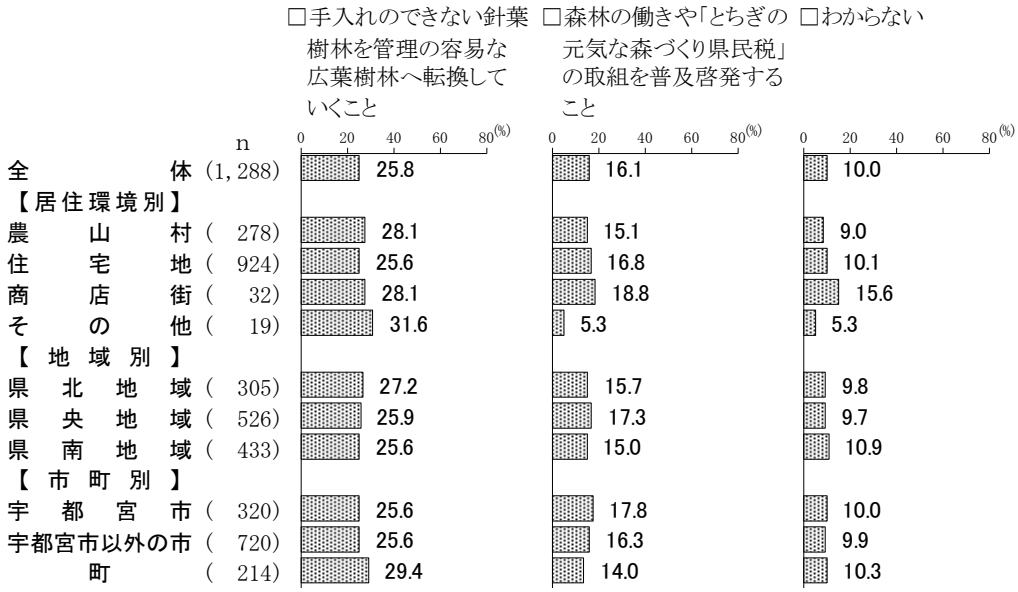


性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉（29.4％）が〈女性〉（23.2％）より6.2ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性50歳代〉が43.0％と高くなっている。

［居住環境別・地域別・市町別］





居住環境別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈農山村〉が66.9％と高くなっている。

地域別・市町別では、大きな傾向の違いはみられない。